

## 87 瀨峡のジェット船

ープロペラ船から進化しましたー

秀樹君こんにちは。以前、「鉄でできた船がどうして浮くの？」と尋ねてきたときの返事に「奈良県には遊覧船が1隻しかありません」と書きました。確かにそのとおりなのですが、ほかにも50人乗りの遊覧船がやって来る所があります。それが十津川村田戸で、和歌山県熊野交通の船、ジェット船です。



世界遺産の熊野本宮大社の近くの志古を出発したこのジェット船は時速40kmで熊野川をさかのぼります。船底から吸い込んだ水を255馬力のエンジンで後方に噴射、この力で走るの



です。兩岸に断崖がせまり、奇岩が並ぶ瀨峡に入るとスライド式の屋根が開きます。台風が接近していたのですが、少し青空が見え快適な旅になりました。さらに瀨峡は続くのですが、乗船場に接岸し、休憩です。ここは奈良県ですが、対岸は三重県と和歌山県、3県の境目です。休憩の間に、運転士さんに「バックはどうするのですか」と尋ねたら、こんな資料で説明してくださいました。ふだんは後ろに勢いよく噴射している水を斜め前方に噴射させるのだそうです。

私が、初めてこの瀨八丁を訪れたのは昭和30(1955)年のこと、ここを走っていたのはプロペラ船でした。船の後ろに据え付けられ大き

なエンジンがプロペラを勢よく回転させ、その力で船が進みます。エンジン音とプロペラの風切り音がすごかったことを覚えています。このプロペラ船は、川底が浅いために普通のスクリュー（スクリュープロペラ）では駄目だということで大正時代に考え出されたものです。



休憩の後、さらに上流に進むと、獅子岩、こま犬岩、マツタケ岩など、面白い形の岩が次々と現れます。そそり立つ岩やつり橋を見ることができました。

出発点の志古に戻って来ると、開業当時から資料が展示されていました。それによると、大正時代に運航していたのは熊野川飛行艇株式会社です。空は飛びませんから、「飛行艇」というのはちょっとオーバーですが、その頃の様子を説明している資料には「天下絶景 瀨峡遊覧ハ、プロペラ船ニ限ル」という当時のポスターがありました。

遠いから、「行ってごらん」という訳には行きませんが、珍しい所へのドライブが大好きなお父さんにおねだりしてみますか。

(平成 27 年 9 月・小 4 の秀樹君宛て)

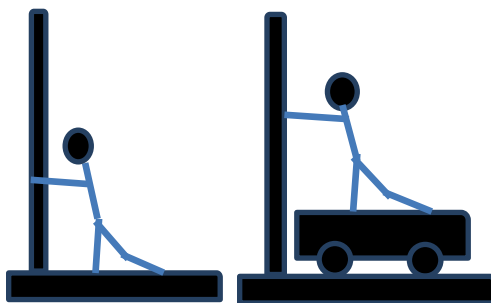
## スポットの案内

このジェット船を運航しているのは熊野交通株式会社、志古乗船場は国道 168 号線沿いにあります。所在地は和歌山県新宮市熊野川町日足 271、電話は 0735-44-0331 です。

## 理科のワンポイント「作用と反作用」

手で壁を押すと、手は壁から押し返されます。「押されたような気がしないけど」という人はスケートボードに乗って同じことをしてみましょう。スケートボードが反対方向に動くでしょう。壁に押されたから動いたのです。このとき、加えた力を作用、押し返す力を反作用といいます。作用と反作用は2つの物体の間で同時にはたらき、大きさは等しく、一直線上で、向きは反対です。

お行儀の悪い私、いすに車がついているのをよいことに、少し後ろに行きたいときには机を押し、前に来ようとするときは机を引っ張ります。重い机は動かず、いすが思った方向に動きます。反作用を利用しているのです。



ボートの場合も同じです。オールで水を押します。押された水はオールを押し返します。オールはボートに取り付けてありますからボートが動くのです。ジェット船も同じこと、エンジンの強い力で水を押し出します。押し出される水は船体を押し返します。強い力を加えるから反作用も大きく、ジェット船は快適に走るのです。